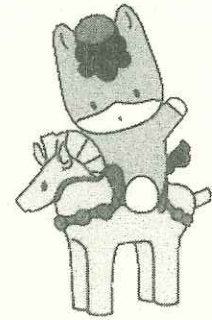


東国文化自由研究レポート



研究テーマ

古墳の「場戸所」に
込められた思い

提出日 2021年8月27日(金)



伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校

1年 1組 19番

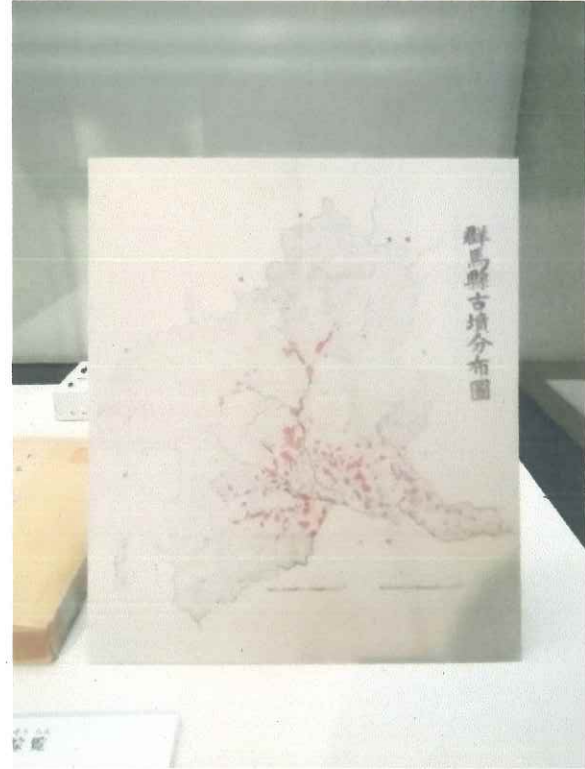
氏名 神保 凜太郎

1, 調査の動機

群馬県には、たくさんの古墳があります。例えば、コンビニに行くとしても、道中一つぐら
いは、古墳を見かけます。どこもかしこも古墳だらけ。さすが群馬と思ってしまうと同時に、
「また古墳か」とうんざりしてしまう時もあります。気にな
るその数はなんと、一万以上！私の月のお小遣いより何倍
も多いです。

そこで私は最初、「古墳がなぜ群馬に多いのか」というこ
とに興味を持ち、インターネットで、群馬県の古墳、と調べ
てみました。古墳の多さに改めて驚きながら調べていると、
群馬県の古墳の分布図というものを見つけました。

気になって見てみると、古墳（赤色の点）が特定の個所に集
中していることに気づきました。右の写真じゃわかりづら
いかもしれませんが、群馬県の南部（東部）には、たくさ
んの古墳があるのに、北部にはほとんどありません。また、古
墳が線状に並んで作られています。「こりゃあ、なんかある
なあ」と思い、私は「古墳がなぜ群馬に多いのか」というこ
とより、「古墳がなぜそこに集中しているのか」ということ
が気になり、今回のテーマを、古墳の場所に関するものに設
定しようと思いました。

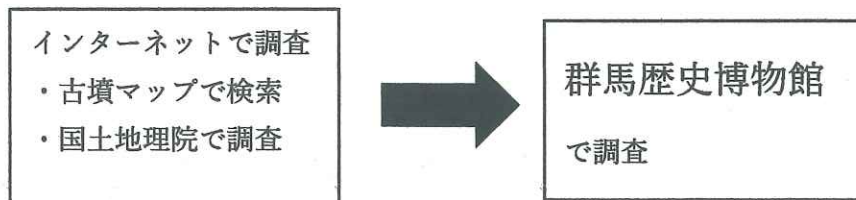


群馬県古墳分布図（上の写真）

2, 調査の目的

調査の目的は、古墳のある場所の特徴を見つけ、昔の人々の、生活
や考え方を知ること。昔の人々が、同じような場所に、たくさんの古墳を作るには何か理由
があります。それを知ること、昔の人々の生活を探ることが出来るはずです。

3, 調査方法



調査方法は上の図の通りです。まずは、家でもできるインターネットでの調査。いろん
なサイトを使って、その場所の地形を簡単に調べます。国土地理院では、土地の高低な
どの細かな情報も調べることが出来るので、調査するうえで、結構役立つサイトです。
次に、群馬歴史博物館での調査。とにかく、資料が豊富で、写真を撮ってもいい所もあ

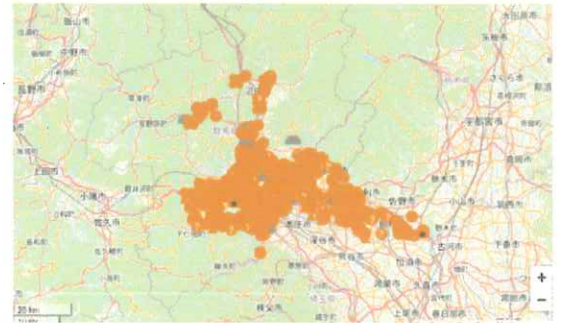
ります。インターネットじゃ見つからない、深いところまで探っていきます。

4, 調査結果

4-1 インターネットでの調査

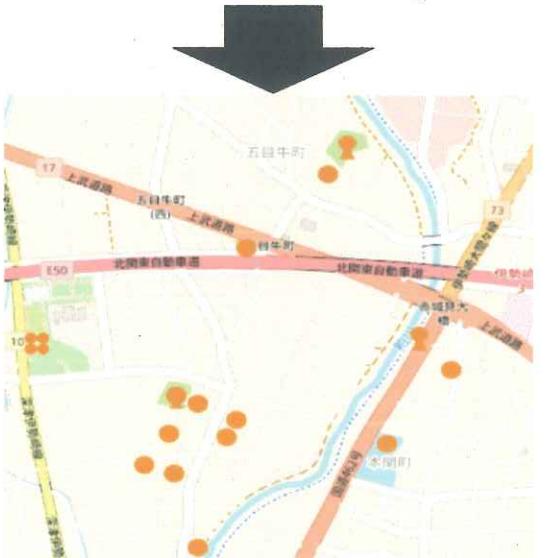
・川と古墳

何か、茶色い点がたくさん集まっている地図がありますが、この茶色い点は古墳や遺跡です。これを見ると、やはり、古墳が一か所に集中して作られているとわかります。



そしてこれを拡大すると、右の図のようになります。青い線が川で、ピンクやオレンジの線は高速道路などです。それを踏まえてみると、古墳はみんな、川の近くに作られているということがわかります。右の図にある古墳の作られた年や形は、みんなバラバラですが、やはり、どれも川の近くに作られています。このため、古墳が線状に並んで作られているように見えるのは、古墳が川の近くで作られているからだと分かりました。

では、なぜ古墳が川の近くで作られるのでしょうか？
この理由は二つ考えられます。



① 川の近くでは、文明が発展しやすく、豪族が多く暮らしていたから。

古墳があるということは、その近くに豪族がいたということです。川があれば農作物を育てたり、飲み水を確保したり、色々なことが出来ます。豪族が、自分の勢力を強くしようと

川の近くにすんでいたのではないのでしょうか？

② 古墳の材料を運ぶのが楽だったから。

船を使えば、川上から川下へ、楽に荷物を運べます。紀元前4000年の出土品に、組立船らしきものが出土するほど、船は昔からあったので、このころの日本にも、船はあったでしょう。右の写真は、鳥取県から出土したのですが、



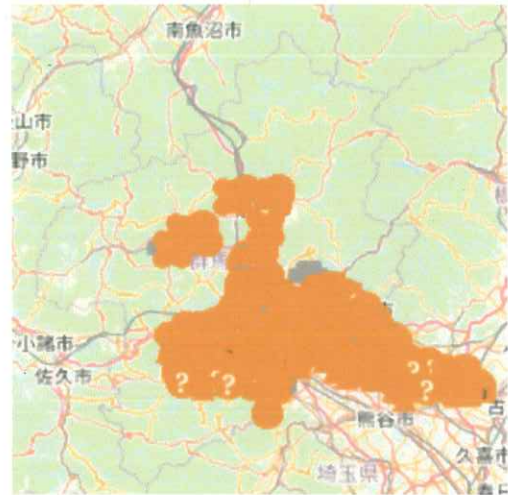
鳥取県で出土した丸木舟

群馬県でこういったものがまだ発掘されていない可能性もありますし、この写真によって、船を作る技術が、この時代にあったことが証明されたので、

②の理由も、十分にあり得ることです。この二つをまとめると、川の近くは便利なので、豪族がたくさん住んでいて、古墳も作りやすいので、古墳がたくさんある、ということになります。

もちろん、例外もありますが、とても少なく、やはり古墳は川の近くに多く作られていると見て間違いのないようです。

・土地の標高と古墳



左は、群馬県全体の標高を表した地図で、右は、古墳の位置がわかる地図です。

この二つを比較して見ると、群馬県北部の標高が高いところには、古墳があまり作られておらず、標高の低い土地には、たくさんの古墳が作られています。

これは、低い土地のほうが、古墳が作りやすいためだと考えられます。標高が高い土地は、地面がデコボコで、古墳が作りづらけれど、標高が低い土地、そして関東には関東平野という、広大な平野が広がっていますから、古墳がとても作りやすいのだと思います。

デコボコしたところにある古墳もありますが、大きさは他の物と比べて小さいそうなので、あまり力の強い豪族ではなかったのかもしれない。

右の地図は、平野にある古墳である、二子山古墳付近の標高がわかる地図です。オレンジ色の部分は台地、黄色い部分はオレンジの部分より少しだけ低い砂丘のような部分、青色の部分は、かつて川があった、もしくは今も川が流れている部分です。

この図を見ると、古墳が高い所に作られていることがわかります。では一体なぜ高い所に作られているので



しょうか？

それは、他の豪族に見せつけるためだと考えられます。そもそも古墳なんていう無駄に大きい墓を作るのは、その豪族の力を他の豪族に見せつけるという目的があります。古墳を高い所に作れば、その古墳は注目され、自分の権力をよりアピールすることが出来ます。よって、高い所に古墳を作っていたと考えられます。

すると、川の近くに古墳を作っていたのも、ただ便利だからという理由だけでなく、権力を見せつけるためだとも考えることが出来ます。

もし、昔の人々が船に乗って川を渡っていたのなら、川を渡っている最中に、古墳を見かけるでしょう。そうすれば、より広い地域に、自分の権力を見せつけることが出来ます。群馬県の豪族は、地形を利用し、古墳を作りながら、自分の勢力を拡大していったのでしよう。



川の近くの一関古墳からの眺め
辺りを見渡せるほどに高い。

4-2 群馬歴史博物館での調査



・馬と古墳 古墳の材料の運搬方法



今までの調査と違って、今回は古墳の材料の運搬方法ということに目を向けて、

古墳の場所の特徴を見つけていきたいと思います。

群馬県には、名前の通り、昔、馬がたくさん居たとされています。

人を乗せたり、田んぼを耕したりなど、当時の人々にとって馬はとてもありがたい動物だったでしょう。その証拠に、馬の形をした埴輪も出土しています。(左の写真)この馬型埴輪は珍しく、群馬県以外の県では、あまり出土していないそうです。こういったことから、昔の群馬県の人々の生活に、馬が深く関わっていたということがわかります。

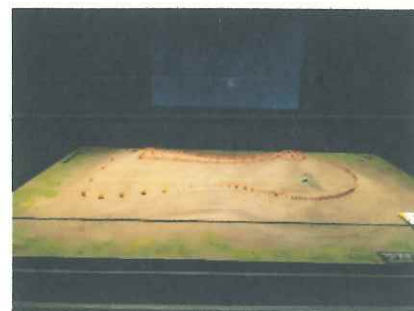
綿貫観音山古墳に使われた石が、榛名山の、角閃石安山岩だという情報を歴史博物館で仕入れてきたので、地図を使って、榛名山から古墳までの距離を調べてみました。(右の図)

綿貫観音山古墳は利根川の近くにある古墳ですが、その他の大きい川が、古墳周辺にないことが、図から分かります。石の出来方から考えると、黒丸で囲っていたあ



なりに、角閃石安山岩があるのですが、近くに川がないので、馬を使って、石を運んできたと考えられます。

川を動かすことなんて、簡単にはできないし、川を増やすことも、難しいです。しかし、馬は、草を食べさせればよく育ち、数も増やすことも出来るので、馬のほうが、物を運ぶのに役立っていたのだと思います。右の写真は、私が歴博で撮った綿貫観音山古墳の模型なのですが、大きめの古墳で、もし馬がいなかったら、作れなかったでしょう。



古墳時代の馬は、サラブレッドに比べ、小柄であったことがわかっています。このことがわかったのは、馬が埋葬されていて、骨が出土したからです。(左の歴博の資料より) また、馬を人々が育てていたことも分かっています。やはり、馬は物流の中心だったのかもしれない。

そう考えると、古墳は、馬が育てやすく、馬を使いやすい所に作られているのではないのでしょうか？ インターネットでの調査で、古墳は川の近くに作られるということがわかりました。近くに川があれば、馬の飲み水には困りません。それに、群馬県で船が出土していないというのも、馬が物流の基本だとすると、船が使われていなかった(全く使われなかったわけではないと思うが) からだと考えられます。また、平野に古墳が作られるのも、牧草を集めるのが簡単だから、馬が住むのにちょうどいい温度だったからなど、馬が過ごしやすい環境になっています。古墳は馬が住むのに、ちょうどいい所に作られていたのです。

・土地の標高と神と古墳

おく-つき【奥つ城】の解説

《外界から遮られた奥まった境域の意》墓所。また、神道では、神霊を祭ってある所。神の宮居。おきつき。

「亡母(はは)の墳塋(おくつき)を訪うて」(木下尚江・良人の自白)

「大伴の遠つ神祖(かむおや)の一は著(しる)く標(しめ)立て人の知るべく」(万・四〇九六)

古墳が [補説]「奥津城」とも書く。

高い所

に作られるのは、他の豪族に力を見せつけるためと、インターネットでの調査でわかりましたが、他にも理由があるのではないかと思い、歴史博物館を見て回りました。

すると、奥津城、という言葉を見つけました。

奥津城とは、上の図(goo辞書から引用)のように、お墓のことを指します。

しかし、神道では、「神を祭っている場所」を指すそうです。古墳も、この奥津城に含まれるそうです。そうとなると、昔の人々は、古墳を、ある一人の豪族の墓としてではなく、神

とその豪族を結びつけるものとして、古墳を作ったのだと考えられます。豪族を神としてまつ場所として、古墳が作られたということです。江戸幕府を開いた、徳川家康も、神社で神として祭られているから、豪族を神とするのも、ありえない話ではないと思います。もし豪族が神としてまつられていたのなら、古墳がなるべく高い位置に作られた理由は、神とその豪族との繋がりを強くし、天に行くためだと考えられます。神様は天ににいるという考え方から、より天に近くなるように、なるべく高い所に古墳を作ったのです。そうすれば、豪族が天に行くことが出来ると考えたのだと思います。



古墳の上に立っている神社があります。それは、烏子稲荷神社（すないごいなりじんじゃ）という神社です。神様に神社が近くなるように、古墳の高さを利用したと考えると、納得がいきます。他にも、古墳の上に建てられている神社というのは、県内でもたくさんあります。昔の豪族は、徳川家康が生まれるずっと前から、自分の神格化を、古墳を用いて行っていたと考えられます。

・時代の流れと古墳

古墳には、前期、後期、終末期があります。右の図は、前期古墳の分布を示したものです。今までの調査でわかったことを活かし、見ていくと、

- ・川沿いに作られている。
- ・平野で作られている。

という上の二つのことがわかります。古墳が作られ始めたときは、まだ、馬の数が少なかったのか、それとも力を持った豪族がそこまでいなかったのか分かりませんが、作られた古墳は少ないようです。ただ、

この時からすでに、川沿いに作られていることから、人々にとって、川というのは、馬と同じくらい大切なものだったのでしょう。また、このころの古墳は、平野で作られており、そこまで土地の開発が進んでいなかったと考えられます



後期古墳

後期になってくると、開発が進み、大和政権とのつながりも強くなっていったため、大きめの前方後円墳がたくさん作られるようになりました。開発が進んだおかげで、平野より少し荒れた土地でも、小さなものですが、古墳を作ることが出来るようになりました。やはり、馬が育てやすい平野や、川が近くにある所に、古墳が多く作られています。

時代が変わっても、

「馬が育てやすい」「水を確保できる」

この二つは古墳を作るのに深く関係しているようです。

146m)は、この時期では東国最大級の前方後円墳でした。

後期古墳の分布



終末期古墳

終末期の古墳は、数が少なく、大きさもそこまで大きいというわけではありません。豪族がいなくなったことでもあります、仏教が日本に入ってきたことで、古墳よりも、お寺を作る時代になっていくため、古墳があまり作られなかったとも考えられます。

しかし、この時代でも、

「馬が育てやすい」「水を確保できる」

という二つを満たすところに建てられています。



前期古墳、後期古墳、終末期古墳をそれぞれ比べてみると、どの時代も、川などの水を確保できる場所、馬が育てやすい、平らな場所という二つに当てはまる場所に作られています。開発が進んでも、デコボコした土地には、ほとんど古墳は作られないことから、古墳を作る場所の時代による変化は微々たるもので、いつの時代も、水、馬を利用しやすい場所、つまり、平野で川の近くにある場所に作られているということがわかりました。

5, 調査から分かったこと

・古墳を作る場所の共通点

古墳を作る場所の共通点は三つあります。

① 生活を支えてくれる馬を育てやすいところ (人が住みやすいところ)

群馬県と、名前にある通り、むかし群馬にはたくさんの馬がいました。馬は田んぼをひくことにも使えるし、物も運べる、とてもありがたい動物です。群馬県から馬の骨が出土していることから、古墳時代、馬を育てていたことが判明したので、より生活を便利にするため、豪族が馬を育てさせていたと考えられます。

② 川など、水を確保できるところの近く

古墳は大抵、川の近くに作られています。飲み水の確保などいろいろなことが出来るからです。例外もありますが、川の近くのものよりも小さいです。

③ 平野にある、川の影響で高くなっているところ (台地)

古墳は、奥津城の一部であるとする、豪族は自分の神格化を、古墳を用いて行ったと考えられます。古墳が高い所にあるのは、なるべく天に近い所で魂を送ることで、豪族が天に行けるようにしたということです。また、高い所に古墳を作ることで、自分の古墳を大きく見せ、より広い区域に自分の力を見せつけるためでもあります。

6, 終わりに

今回、古墳のある「場所」に着目して、人々の生活を探ることを目的とし、この研究を進めていきました。私たち群馬県民がいつも当たり前に見る古墳。でも、その場所の特徴をよーく見てみると、古墳を作るうえでの、人々の生活風景、込められた思いなどが隠れていました。どの古墳も、工夫されたところに作られていて、それだけ昔の豪族たちは、古墳づくりに熱心だったということが伝わってきました。古墳というと、作られた技術の高さや、大和政権とのつながりなどがよく見られていますが、古墳の場所にも、いろいろな工夫がなされていることに気づき、昔の人々のすばらしさ、文明の高さに驚かされました。今回私が調べた古墳以外にも、場所に特徴を持つ古墳はあるはずです。これからも、古墳の制作技術だけでなく、古墳の場所にも注意して見ていきたいです。

今回の研究に協力して下さった、群馬県立歴史博物館の皆様、ありがとうございました。

使用したサイト

Googlemap、国土地理院地図、古墳マップ、goo 辞書、マッピングぐんま

訪問した古墳

一関古墳、二子山古墳 (前橋)、綿貫観音山古墳、不動山古墳、御藤山古墳、達磨山古墳